

Hondaの交通安全情報紙



Since 1971



～ Safety for Everyone ～  
Hondaはすべての人の  
交通安全を願い活動しています。



●編集室：本田技研工業株式会社 安全運転普及本部内  
〒107-8556 東京都港区南青山2-1-1  
TEL 03(5412)1736  
http://www.honda.co.jp/safetyinfo/  
●編集人：千葉英雄  
※年間購読をご希望の方は、下記までお問合わせください。  
(株)アストクリエイティブ 安全運転普及本部係  
TEL 03 (5439) 1191 E-mail:sj-mail@spirit.honda.co.jp

SJホームページは

CONTENTS

- 特集①高校生への自転車教育……………①
- 特集②リハビリテーション向け運転能力評価サポートソフト……………③
- 現場訪問／Hondaモーターサイクリスト・スクール (HMS) 体験会……………④
- 教育最前線／熊本市高等学校生活指導連盟・安全運転研修体験会……………④
- NEWS REVIEW／熊本県高校生交通安全教育活動開始式……………④
- TOPICS／①東海・近畿地区交通安全教育指導員合同研修会  
②北関東・東北エリア交通指導員情報交換会／③交通指導員情報交換会  
④関東・東北地区交通安全普及活動合同報告会／⑤中部・東海地区交通安全普及活動報告会／⑥東海・近畿・中国・四国地区交通安全普及活動報告会……………⑤
- 交通ルール比較表……………⑥
- 危険予測トレーニング (KYT)／夜間の対向車とのすれ違い (四輪車)……………⑦
- 指導者ファイル／奈良県広陵町・交通指導員の皆さん……………⑦
- SJクイズ……………⑦
- DOCUMENT EYE ⑧／薄暮時・夜間におけるヘッドライトの使用状況を観察する……………⑧

特集①高校生への自転車教育

生徒の意識と行動を変えていくために



昨年10月、警察庁から「良好な自転車交通秩序の実現のための総合対策」が発表され、それ以降、全国各地で自転車の違反に対する取締りの強化をはじめ、自転車利用者を取り巻く環境が変化している (下表参照)。そうした中で、自転車乗用中の交通事故死傷者数に占める割合が高い高校生年代への交通安全教育は重要性を増している。「自転車運転免許制度」の導入など、生徒の安全意識向上をめざす高校の取組みを紹介する。

●昨年末からの自転車に関連した主な動き

- 平成23年12月 ・京都府警察本部、兵庫県警察本部などが危険な自転車への取締りを強化。
- 平成24年 2月 ・警視庁が東京都内で自転車の一斉街頭指導を実施。違反者に指導や警告を行う。  
・静岡県の国道1号「静清バイパス」の一部区間で、全国初となる自転車の一方通行規制を導入。
- 平成24年 4月 ・埼玉県が「埼玉県自転車の安全な利用の促進に関する条例」を施行。自転車の安全な利用に関して、県、県民、自転車利用者、事業者、関係団体の責務を明確化。  
・「愛知県の道路交通法施行細則」の一部が改正され、自転車運転中の携帯電話、イヤホン等の使用が禁止に。(東京都、神奈川県、埼玉県、大阪府などでは既に施行済)  
・立命館大学が自転車通学の学生に自転車保険加入を義務づけ。

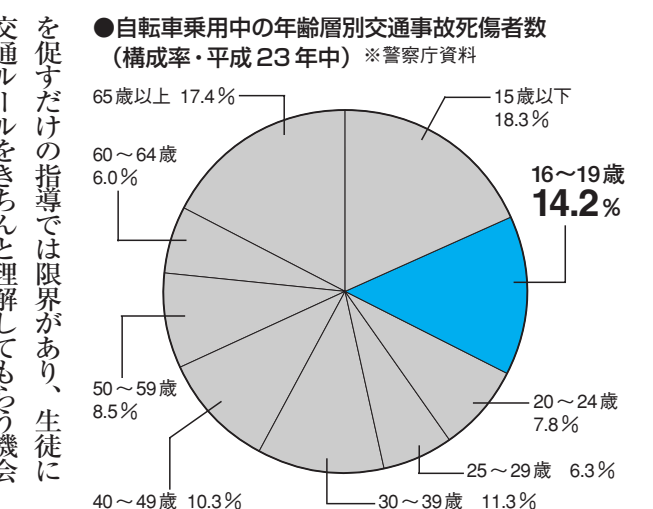


昨年10月の自転車運転免許試験は加茂高校の1年生309名が受けた

「当校の周辺には踏切が多く、しかも遮断機や警報機が設置されていないところも少なくありません。そこを生徒が一時停止や安全確認をせずに横断することがあり、このままでは生徒の命に関わる大きな事故が起きるのではないかと不安を感じていました。また、生徒たちが自転車の交通ルールを正しく理解しているのかという疑問もありました。踏切の手前での一時停止について、ドライバーやライダーは免許を取得する時に習いますが、高校生の多くはそうした機会が少ない。これまでの生徒に注意

「自転車運転免許制度」

平成23年中の自転車乗用中の交通事故死傷者数(14万3737人)を年齢層別にみると、15歳以下が18・3%と最も多く、次いで65歳以上が17・4%であるものの、高校生年代に当たる割合を見ると16～19歳だけで14・2%を占めている(円グラフ参照)。自転車事故を低減するためには、高校生年代への教育がたいへん重要になってくる。こうした中、通学で自転車を利用する生徒が多い高校では様々な手法で自転車教育に取り組んでいる。



河田教諭は他の教職員の賛同を得て計画を進め、地元の加茂警察署と加茂自動車学校に協力を要請。この「自転車運転免許制度」は、既に愛知県立春日井高等学校が実施し効果を上げていることから、河田教諭ら関係者そのノウハウを参考にしながら工夫を加えた。

講習や教習を受けた上で免許試験に臨む

自転車運転免許試験は学科と実技で構成され、昨年10月31日に加茂自動車学校で、1年生309名を対象に実施された。学科試験は正誤式20問、100点満点で80点以上が合格となる。1週間前には、加茂自動車学校から教習指導員を招いて学科試験のための事前講習を行っている。

●問題の一部(いずれも○か×で解答)

- ・ 自転車を運転中の携帯電話の使用は禁止であり、5万円以下の罰金が科せられる。
- ・ 左右の見通しの悪い交差点では一時停止や徐行をして安全を確かめなければならない。
- ・ 踏切の直前(停止線がある場合はその直前)では必ず一時停止をして安全を確かめなければならない。

実技試験は、教習指導員による教習を受けてから始まる。例えば、信号待ちなどで停止している時は左足を地面につけて、右足からこぎ出せる体勢をとっておくように指導。左足に重心を置くことで、万一転倒した時に車道側に倒れることを防ぐことが



### 自転車通学者には 保険の加入を義務づけ

「実は計画を始めたのは昨年6月だった  
左、右そして右後方の安全を確認するよう  
に伝えた。生徒は指定されたコースにある  
7カ所のチェックポイント（左記参照）で  
採点され、学科と同じく100点満点で80  
点以上が合格である。チェックポイントに  
は、河田教諭が問題としている踏切や、見  
通しの悪い交差点、スラローム、一本橋な  
どが含まれている。

「実は計画を始めたのは昨年6月だった

ので、導入は平成24  
年度になると考えて  
いました。しかし、  
生徒の安全を考えると、  
できるだけ早期に実施することが望ま  
しいという校長の判断で、平成23年度に前  
倒しとなりました。この取組みを通じて、  
教職員全体の交通安全に対する理解も深ま  
りました。学科試験の問題作成、実技試験  
のコース設定など実現にあたっては、加茂  
自動車学校の支援がたいへん大きい」と河  
田教諭は話す。  
自転車運転免許試験の後に実施したアン  
ケートでは、生徒への安全意識の向上も確



加茂高校の  
河田雅幸教諭

- 7カ所のチェックポイント  
①スタート ②障害物（駐車車両の通過） ③信号のある交差点  
④スラローム ⑤一本橋 ⑥見通しの悪い交差点 ⑦踏切



一本橋に見立てたシート  
(30cm×5m)の上を7秒  
かけて走行



踏切の手前では一時停止  
して、目と耳で電車が接  
近していないか確認



停止している時は左足を  
地面につけて、右足から  
こぎ出せる体勢をとるよ  
うに指導

学科試験は問題をプロ  
ジェクターに映し  
出し、解答用紙に記  
入してもらう



学科試験と実技試験の間に、  
Honda自転車シミュレータ  
ー体験が行われた



試験には全員が合格し、加茂  
高校の篠田憲明校長より自転  
車運転免許証が手渡された

### 高校生が地域の人々に 交通安全を伝える

「当校では全高P連賠償責任補償制度に  
加入していますが、それに加えて自転車総  
合保険または高校生総合保険等への加入も  
義務づけました。高校生でも加害事故を起  
こして相手にケガを負わせた場合、多額の  
賠償金を請求されるケースがあります。こ  
うした面も学校側がケアしていく必要があ  
ると思っています」と河田教諭はいう。

高校生への交通安全教育において、新た  
なアプローチを行っているのが神奈川県  
だ。生徒が交通事故防止に向けて取り組む  
とともに、地域の人々に交通安全の大切さ  
を呼びかけていく「スタートかながわ」と  
いう交通安全教育推進運動を平成22年より  
展開している。平成23年度、「スタートか  
ながわ」のモデル校の1つとなったのが、  
神奈川県立横須賀工業高等学校（神奈川県  
横須賀市）である。

同校では全校生徒の約4割が自転車で通  
学している。そのため、毎年4月には新1  
年生に地元警察署による交通講話を実施。  
その後、自転車通学者を対象にグラウンド  
を使って、自転車実技講習を行っている。  
生徒が自分の自転車を運転し、パイロンス  
ラロームや一本橋に取り組み。さらに、実  
際に二人乗りや携帯電話を使用しての運転  
を体験し、ハンドルやブレーキの操作が不  
安定になり、危険であることを生徒に感じ  
てもらっている。

そして、昨年度は「スタートかながわ」  
の活動として、「早朝交通安全呼びかけ活  
動」(2回)と「高齢者宅訪問」(1回)を  
加えた。「早朝交通安全呼びかけ活動」で  
は、高校周辺の交差点に生徒が警察官と一  
緒に立ち、交通整理などをしながら通学途  
中の小学生を中心に交通安全を呼びかけ

### 啓発活動を通じて 生徒の気づきを促す

「高齢者宅訪問」では警察官と一緒に  
高齢者のいる家庭を12軒訪問し、反射材な  
どを配布しながら、事故防止のポイントを  
説明した。これらは交通安全委員の1、2  
年生30名が担当した。



横須賀工業高校  
の辻崇宏教諭

「早朝交通安全呼びかけ活動」を担当する  
生徒には、自分たちが交通整理を行う交差  
点に潜んでいる危険や、なぜ自分がその場  
所に立つのかという意義を解説。「高齢者  
宅訪問」を担当する生徒には、啓発のポイ  
ントや目上の人に接する時のマナーを伝え  
たという。

「呼びかけ活動を担当した生徒は、交通  
ルールを守らない歩行者や自転車利用者が  
多く、交通整理の難しさを実感していまし  
た。また、高齢者宅訪問を担当した生徒は、  
「自転車での携帯電話やヘッドホン、イヤ  
ホンの使用、無灯火がいかに高齢者の脅威  
になっているかに気づくことができた」と



「高齢者宅訪問」では警察官と一緒に高齢者のいる  
家庭を訪問



横須賀工業高校が毎年4月に開催している自転車  
実技講習会

経験させることで生  
徒に様々な気づきを与  
えた。そして、この2  
校に共通するのは地域  
や関係機関・団体との  
連携・協力である。よ  
り多くの高校で、こう  
した独自の取組みが始  
まれば、自転車事故は  
さらに低減していくは  
ずである。



「早朝交通安全呼  
びかけ活動」では  
高校周辺の交差点  
で、生徒たちが小  
学生などに交通安  
全を呼びかけた